

## ティーチング・ステートメント

所属 都市環境学科  
名前 山本 泰司  
作成日 2019年7月27日  
更新日 2023年3月22日

### 【責任】

都市環境学科に所属し、海岸・港湾工学を中心とした教育・研究活動を行っているほか、1、2年生を対象に水に関係する専門基礎科目、3年生を対象にした河川工学や水理実験などの専門科目、4年生対象の工学概論のような一般科目も担当する。卒業研究では、海岸・港湾工学分野の研究テーマの指導を行っている。

### 【理念】

本学で専門分野を学んだ学生には、卒業後、社会人として充実した人生を歩んでもらいたい。そのため、まずは在学中には技術者のタマゴとしての基本的な知識・能力をしっかりと身につけてもらいたい。

また、社会資本整備などの土木分野では、学問的に広範な知識のほか、地域社会やそこで暮らす人々を理解し、総合的に判断する力が求められる。知識に裏付けられた専門技術者として自らの意見をもてる力とともに、社会とコミュニケーションをとる力をつけ、プロフェSSIONALとして自分に自信を持って社会に貢献できる人材を送り出したい。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するため、「教員が授業で伝えたいことを確実に伝える」「授業への興味を持たせる」「基本的なことを確実に身につけさせる」「自分の意見を発信できる力をつける」という方針で教育を行っている。

#### 「教員が授業で伝えたいことを確実に伝える」

- ・ 授業では主にスライド（PPT）を使用して説明し、文字はできるだけ大きく見やすく、1画面の情報量が過多にならないよう配慮している。写真、図表、動画により直感的に内容を理解しやすいように工夫し、また、アニメーション効果も併用して、必要なことを確実に伝える工夫をしている。

#### 「授業への興味を持たせる」

- ・ 日々のニュースや新聞の中から、授業に関連するホットな話題や実務への応用例などを講義に盛り込み、学生の興味を引き、授業と実社会の関連を実感してもらい、授業の意義の理解を深めてもらう。

#### 「基本的なことを確実に身につけさせる」

- ・ 講義内容の理解度を測定するため、授業の最後に小テストを行っている。これは、学生に授業内容を振り返る時間を与えるほか、講義に集中するためのモチベーション効果もある。小テストは採点して返却するので、学生も自らの理解度を確認できる。
- ・ 学生にとって教員は最も身近な社会人でもある。授業時間の厳守や、講義を行う姿勢、各学生に対して丁寧に対応する姿などを見せることで、社会人としての基本的なルールを学んでもらう。

「自分の意見を発信できる力をつける」

- ・ 演習科目や卒業研究指導においては、自分の考えをまとめて発信する力をつけるため、毎回の授業やゼミにおいてテーマを与えて、PPT 等に自らの意見をまとめて発表させている。

#### 【評価・成果】

- ・ 2022 年度の授業改善のための学生アンケートの回答をみると、「円滑な授業に向けた教員の準備」、「毎回授業の目標と、その達成に向けた授業」、「授業に工夫がされている」等、教員側の評価に関する設問への肯定的回答割合が 74%~95%（平均 83%）あり、比較的高い。
- ・ 「授業に意欲的に取り組んだ」、「新たな興味や問題意識を持つことができた」等の学生側の取り組みに対しても肯定的回答割合が 72~89%（平均 82%）と比較的高い。

#### 【目標】

- ・ コミュニケーション力や総合的な判断力を養い、また、課題等をより深く考える力をつけてもらうため、アクティブラーニングを授業に取り入れる。